

承認番号：1634

嫌色素性腎細胞癌におけるテロメア維持機構の生物学的、臨床的意義に関する研究

1. 研究の対象

2001年1月-2021年12月に当院で嫌色素性腎細胞癌と診断され手術を受けられた方

2. 研究目的・方法

腫瘍細胞は細胞増殖を維持するために細胞分裂ごとに短くなるテロメアをテロメア維持機構 (telomere maintenance mechanism) により維持・伸長し、テロメア短縮による細胞死を防ぎます。テロメア維持機構にはテロメラーゼの活性化またはテロメラーゼ非依存性テロメア維持機構 (alternative lengthening of telomeres, ALT) があります。嫌色素性腎細胞癌ではテロメラーゼの活性化は他の腎細胞癌に比べて極めて頻度が低く、予後や悪性度と相関しないことが報告されていますが、解析症例数は少なく多くの検体で検証する必要があります。一方、嫌色素性腎細胞癌における ALT の解析は1報ありますが ALT 陽性嫌色素性腎細胞癌の分子生物学的、臨床的特徴や予後は検討されていません。そこで本研究ではテロメア維持機構が亢進した嫌色素性腎細胞癌の分子生物学的、臨床的特徴や予後の後方視的解析を実施する。また、ALT 陽性嫌色素性腎細胞癌の分子生物学的背景を解析し、嫌色素性腎細胞癌の治療成績改善のための基礎的データを取得し、将来の医学発展に貢献します。

方法

以下の解析を実施します。

テロメア維持機構 (telomere maintenance mechanism) の解析

マイクロアレイを用いたアレル特異的なコピー数異常解析

体細胞遺伝子変異解析

臨床背景因子と予後の解析

研究実施期間：倫理審査承認後から 2028 年 3 月 31 日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：発症年齢、検査時マーカー各種、病歴、治療歴、転帰、副作用等の発生状況、がん組織の網羅的ゲノム解析のデータ等

試料：生検や手術、検査などで採取された腫瘍組織、非癌部組織、血液

4. 研究に用いる試料・情報の取得方法

電子カルテから3の情報を取得します。

すでに採取され保存されている3の試料を使用します。

5. 外部への試料・情報の提供

腫瘍組織などから抽出した DNA や RNA の一部は新たな番号を付与し、付与された番号にて外部の施設に送付され解析されます。

本研究から得られたデータの解析結果は国内外の学会や論文などで発表します。論文などで報告したデータは、バイオサイエンスデータベースなどの国内・海外の公開データベースに登録することがあります。個人が識別できる情報は、当センターの研究責任者のみが保管・管理します。また、埼玉県立がんセンター病院長が責任をもって管理・監督します。

6. 研究組織

埼玉県立がんセンター	上條岳彦
東京医科歯科大学	吉田宗一郎
	中村祐基

7. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

研究代表者：

〒362-0806

埼玉県北足立郡伊奈町小室 818

埼玉県立がんセンター

臨床腫瘍研究所 TEL: 048-722-1111 FAX: 048-722-1739

所長 上條岳彦 E-mail: tkamijo@saitama-pho.jp